

2022年2月17日

一般社団法人 日本医療検査科学会 国際交流委員会
2021年度第4回委員会議事録

1. 日 時：2022年2月17日(水) 16:00～17:00
2. 場 所：On-line[Zoom]会議
3. 出席者(敬称略)：康委員長，萩原副委員長，工藤委員，三浦委員，橋口委員，岡田委員，村上オブザーバー，大川
- 欠席者(敬称略)：柳原委員，田畑委員，菊池オブザーバー
4. 配布資料：
なし

5. 議事

1) 審議事項

(1) NCGM 医療技術等国際展開推進事業について

・(康委員長) NCGM 令和4年度 医療技術等国際展開推進事業(日本人専門家を関係国に派遣して行う現地研修，外国人保健医療関係者の受け入れ，オンラインによる研修等)の募集がある。締め切りが3月1日となっており，可能な提案はあるかどうか。また，三浦委員より，上記とは別のプロジェクトに関して提案があると聞いている。

・(三浦委員) 前回の承認された内容(ミャンマーへのCOVID-19に関する研修)と同じ内容で，対象国を広げて行うということもできる。ただ，計画を立てる上で重要なのは相手国の機関がどういうところか明確に書かなければならない。時間がなければ，見送って，二次募集あるいは次年度に申請でも良い。

・(大川) ベトナムのHuy先生から何か一緒に行いましょうという話がある。今後のことを考えて，上記のような研修会が可能かどうか打診してみる。

・(三浦委員) JACLaSが東南アジアとコンタクトをとっており，影響力のある教育機関を通じて何か計画を立てているかもしれない。この後のJACLaSとのミーティングで議題にあげてはどうか。

(2) アジア健康構想に関連する事業/プロジェクトとの連携活動

・(三浦委員より) 構想内容の説明)

前回の委員会では，上記のCOVID-19の教育だけでなく糖尿病やエイズを二つ目，三つ目の事業として加えることが議論された。特に糖尿病に関する事業について，NCGM内でも委員会との連携の可能性について話を進めている。また，アークレイとも打ち合わせを開始しており，インドネシア(テスト数が日本の1/10)を相手国として，糖尿病検査の標準化，精度管理などに関して協力することを協議し，先方の対象施設などについて調査し

ている。ただし、3/1の締め切りには間に合わない。

HbA1cは人種間差、男女差が国によって違う、こういったことを臨床試験で確かめて、その国に応じた標準化が必要である。国内の学会で行っているような標準化事業を、東南アジア諸国におけるパイロット事業としてインドネシアで行う。この辺りに関して、NVGMは本委員会と連携した活動ができると考えている。

今回のプロジェクトの構想は、国内外における産官学の関係組織との連携で、国際共同臨床研究・試験を起点とした活動を展開することにより、糖尿病診療の適正化を推進することである。その一つのプログラムとして、検査の標準化とその教育活動がある。このプロジェクトの運営には、AMED、ERIA、NCGM 国際協力局など、様々な機関からの助成金を考えており、それぞれの機関が出資する項目の枠が異なっている。検査の教育に関しては、医療技術等国際展開推進事業の予算を充当できるかもしれない。

現在、NCGMはアークレイ社と協議をしているが、本プロジェクトの公共性を尊重して、学会からJACLaSを通じて他のIVD企業に対しても、アプローチをすることが良いと考えている。本件に関して、糖尿病診療と検査に関して、広い知識を持っている女子医大の佐藤麻子先生に話を伺いたい。

- ・(大川) 佐藤先生とは面識があるのでコンタクトをとる。
- ・(橋口委員) テーマとして、糖尿病もエイズもどちらも良いが、まずは糖尿病一本に絞って良いと考えている。世界では30秒に1人が足を切断している疾患で非常に重要。

→ 3月中に三浦委員からの上記の状況の報告を待って、糖尿病に関する本委員会の方針を決める。3/1締め切りのNCGM 医療技術等国際展開推進事業への応募は見送り。

(3) 第54回大会における国際シンポジウムに関して

- ・(康委員長) ASCPaLM側はプログラムの変更はしないと伺っている。こちらとしてはそれを尊重し、ASCPaLMが始まる前の初日の午後の一つ行うことを考えている。
- ・(大川) 今年度のベトナムのHuy先生に一つ講演をいただく予定となっているので、講演者の中の一人はHuy先生にしていきたい。
- ・(康委員長) 実際に日本に来て講演できる可能性があることを想定とすると、2名が限度と考えている。したがって、海外講演者2名、日本人講演者2名ではどうか。
- ・(工藤委員) ほとんど参加者がいないので、それをどうにかするべきである。以前にJACLaSと開催した講演会は立ち見がいた。JACLaSメンバーはアジアのマーケットに興味を持っているので、JACLaSメンバーを考慮すべき。また、英語が弊害となっていると考えられるので、同時通訳をつけるべきではないか。

→ シンポジウムは初日の午後。JACLaSとの合同シンポジウムで同時通訳付きという内容でJACLaSと協議する予定。JACLaS会員が参加する際に、費用をどのようにするか、また、

JACLaS のテーマと合うような内容を Huy 先生 (AASMT の President であるため東南アジアの検査状況など) に依頼する.

以上
文責 大川